

図書館だより



No.189

2014(平成26年)3月14日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



展示のお知らせ

村岡花子からのおくりもの

～『赤毛のアン』から

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』まで～

期間：平成26年3月7日(金)～6月4日(水)

場所：福島県立図書館 展示コーナー

長年愛される続けている『赤毛のアン』の最初の翻訳者・村岡花子。翻訳家としてだけでなく、童話作家、評論家、随筆家、児童文化運動家、女性参政権運動家など、その活動は多岐にわたっています。

今回の展示では、児童文学者として、家庭文庫活動のパイオニアとしての村岡花子に注目し紹介します。

ロビー展示

◆「細字書道の会」

期間：4月4日(金)～4月30日(水)

細字書道による国内外の古典を紹介。

近代詩、軍記物、百人一首など

計9点。



福島県立図書館では、情報発信活動の一環として作品発表のスペースを開放しています。詳しくは、児童資料カウンターまでおたずねください。

公開図書室展示

◆「和食～日本の食の底力」

期間：3月7日(金)～4月30日(水)

2013年12月ユネスコ無形文化遺産に登録された和食や食文化についての本を展示しています。



◆「日本の風景を訪ねる」

期間：3月7日(金)～6月4日(水)

『別冊太陽』『観光とまちづくり』など、日本の名所や美しい風景を掲載した雑誌を、ブラウジングコーナー付近で紹介しています。



ボランティア募集中!

福島県立図書館では、下記の期間において業務に協力してくださるボランティアの方を募集しています。

期間：ボランティア登録時～27年3月

業務内容：新聞記事タイトルのデータ入力

県内在住の18歳以上で、パソコン(エクセル表)入力作業が可能な方

来館ボランティアと在宅ボランティアがあります。詳しくは当館、資料情報サービス部までお問い合わせ下さい。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『不合理 誰もがまぬがれない思考の罠 100』

スチュアート・サザーランド／著
阪急コミュニケーションズ
2013.12 141.51/¥13Z/

「人間は、理性をもって合理的な行動をすることができる」。本書は心理学の膨大なデータを論拠に、そんな常識を覆してしまいます。

第一印象に拘ったり、直感に頼ったりしがちな思考のあやうさから、人がどれほど数字情報を読み違えているかという事実まで、著者は人が陥る思考の罠を網羅的に検証し、人間の不合理性を説きます。

しかし同時に、合理的に考えるためのヒントの模索と提示にも熱心。とても前向きな態度の本です。

『鉄道の未来予想図』土屋武之／著 実業之日本社
2013.6 686.21/¥136/

「陸のLCC」を目指してJR貨物が格安寝台列車事業に参入!?東京23区の電車運賃がついに共通化!?

ありそうでまだない、でも荒唐無稽というわけではない、未来の鉄道についての真面目な空想物語。

技術面のみならず販売促進プランに至るまで細かく練られ、空想であることを忘れそうになります。

また「共通運賃」「信用乗車方式」等が普及している欧州の鉄道事情と日本との違いにも興味深いものがあります。著者は鉄道ライターです。

『老いを考える100冊の本』久我勝利／著
致知出版社 2013.9 367.7/¥139/

長く生きていれば、誰でもいつか迎える「老い」。本書は、古典小説や戯曲から、現代のエッセイ、自伝、ノンフィクションに科学、実用書まで、「老い」に関する本100冊を集め、一節を抜き出しながら紹介していく本です。様々な人の目から見た「老い」は、時に豊かで、時にままならないエピソードに満ちています。老いとは何かに向き合い、味わい、備えるための一冊です。

児童・児童図書研究

『藤田浩子の絵本は育児書』藤田浩子／著
アイ企画 2013.7 J019.53/¥

長く幼児教育と子どもの本の活動に携わってきた著者が、絵本を通じて子育てを語ります。

様々な絵本を、「あそび」や「ことば」などのテーマに沿って、子育ての現場におけるエピソードを交えながら紹介。作品論ではなく、描かれている子どもの姿や、絵本を読んだ後の子どもたちの反応から、その心の動きを読み取り、大人はどう寄り添っていくのが書かれた「育児書」になっています。

子育てを巡る情報は多種多様ですが、優れた絵本が発するメッセージを受け取ることによって、子どもと向き合った育児ができること、親子で成長し合えることを本書は示しています。

雑誌・新聞

日本中がソチオリンピックの話題で大盛り上がりを見せていた中の2014年2月20日、安倍首相は衆議院予算委員会において集団的自衛権の行使容認に向けた憲法解釈の見直しについて、閣議決定を実施する方針であることを明らかにしました。今回はこの「集団的自衛権」をめぐる様々な見解を掲載した雑誌を紹介합니다。

* 集団的自衛権行使は何を守るのか：空虚な容認論がもたらす危機 (特集 暴走する安全保障政策) 半田滋／著

Z/051/S1『世界』2013年12月号

* 集団的自衛権と憲法解釈の変更 (特集 今こそ日本国憲法を) 浦田一郎／著

Z/375.3/R2/『歴史地理教育』2014年1月号

* 韓国はなぜ集団的自衛権を恐れるのか：積極的平和主義が封じる「いつか来た道」論 北岡伸一／著

Z/051/V1『Voice』2014年1月号

* 「集団的自衛権」を先送りさせた公明党の内部事情 佐々木美恵／著

Z/051/S30『正論』2014年1月号

* 憲法と集団的自衛権：政府解釈の変更論を中心に 浦田一郎さん(明治大学教授)に聞く 浦田一郎／著

Z/315.1/Z1『前衛』2014年1月号

地域

『それでもわたしは山に登る』

田部井淳子／著 文藝春秋
2013.9 LA786/T1/13

「生きているうちに、歩けるうちにいろんなところに出かけ、いろんなものを見ておくために時間を使いたい。」3ヶ月の余命宣告を受け、点滴の合間を縫いながら、それでも彼女は山に登る。

前半は山から学んだ土壇場の切り抜け方。後半は単にガンの闘病記ではなく、前半の教訓を受ける形で人生の土壇場に挑んでいく、登山家・田部井淳子の力強い生き方が見えてくる一冊。

『思い出の先にはいつも家庭料理

花桃四季の一品料理&エッセイ』

寛仁親王妃信子／料理&エッセイ マガジンハウス
2013.10 LA596/T1/1

本書は、信子殿下が療養中に訪れた伊達市の人々との交流から生まれました。料理にまつわる思い出話や福島の人々とのエピソードが中心に綴られています。

収録されているレシピは、伊達の食材にこだわった、丁寧で、どこか上品な家庭料理ばかり。食材を使い切るためのひと工夫も添えられていて、読んで、つくって楽しめる一冊です。